

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
	<p>児童の下校時の安全対策について。今後の通学路の安全対策は、説明にあった再編協議会に任せるといふことか？下校時間に保護者はまだ仕事をしており、婦人会や老人会での見守りも難しい。警察のパトロールに任せるとはならず、教育委員会で予算化して対応して欲しい。朝は見守り隊の方が立っているが、下校時が心配である。</p>	<p>登下校時の安全対策は、非常に重要な課題だと認識している。現在でも、交通安全協会の会員の方々を中心として、朝の通学時間帯に横断歩道に立っていただく等、地域の方々にご協力いただいております。まず、現状の取組みとしては、中学校単位で警察官OBによるパトロールを実施している。また、通学路の安全確保については、毎年小学校から危険箇所を報告してもらい、道路管理者、警察、保護者等で現場立会いを行い、対策を検討する通学路安全対策協議会の取組みを行っている。これらの取組みが再編後どうなるのかということだが、取組み方は基本的には変わらない。ただ、通学距離が長くなるため、新たな危険箇所や児童生徒の通行が多くなる箇所の安全確保をきちんと行っていきたい。また、学校再編協議会(仮称)に今後の安全対策を任せるとは考えない。再編協議会(仮称)は、統合校を開校するまでの間、新設校における危険箇所等を検討し、対策を行っていくものである。校区の皆様のご支援は再編後も必要であるが、支え手が高齢化している問題も承知している。私共としても予算確保を図りながら安全対策に努めていきたい。</p>
1	<p>子どもの安全対策として、不審者対策を重点的に行って欲しい。青少年育成市民会議という団体があるが、この団体の目的では児童生徒の安全面に触れられていない。これはなぜか？</p>	<p>青少年育成市民会議は、子どもの健全育成を目的として設立されたものである。この団体が子どもの安全対策に触れていない理由としては特になく、設立時に不審者対策等が想定されていなかったのではないかと推測する。柳川市の場合、合併前から安全安心まちづくり推進協議会が組織され、青少年育成市民会議を含め、様々な団体で安全対策の取組みが展開されている。当時の警察署長が述べた「防犯には地域の目が最も重要」という考え方のもと、各地域で門灯の一斉点灯活動等に取り組んでいただいております。現在は、地域の方の負担を少しでも減らす考えもあり、警察OBに委託してのパトロールを実施している。取組みが不足する部分への対応は、今後も継続して検討していく。</p>
	<p>登校時は良いが、下校時はお答えいただいたような取組みが徹底できていない。警察OBによるパトロールも月に数回しか行なわれていない。教育委員会等がしっかり指示をして、目に見える形で取組みを行っていただきたい。</p>	<p>貴重なご意見である。持ち帰り検討させていただく。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
2	<p>旧大和町に続き旧柳川市の過疎地域指定を受けるような状況では、学校再編はやむをえないと思う。私は城内小学校のすぐ近くに住んでいるが、朝と夕方の時間帯に校門の前に停車して子どもの送迎をしている車を頻繁に見る。学校は保護者の送迎を前提としていないのは理解しているが、現実として非常に危険である。今後、学校が統合されて児童生徒数が増えれば、更に送迎車両が増えると思う。隣接する市民体育館を保護者送迎用の停車場所として開放するなど、協議検討していただきたい。</p>	<p>大変ご迷惑をおかけしていることと思う。お詫び申し上げます。基本的には子どもが自分で通学するのが前提であるが、実際そうはなっていないという状況は承知している。(仮称)柳城小になった際は、東宮永校区の南では2kmを超えるのでスクールバスの対象となると思うが、城内校区と柳河校区は概ね2kmの範囲内に収まるためバスは出ないだろうと思われる。その場合は、やはり送迎しようとする保護者がいらっしゃるかと思う。再編協議会(仮称)だけでなく、協議の場を設けて開校までに対策を検討したい。</p>
3	<p>再編計画(案)を見るに、現在の中学校区が新しい小学校区になると認識している。先程の質疑応答で、東宮永校区の南側は、少し2kmを超える部分があるとのことだった。それならば、東宮永校区は(仮称)柳南小に統合させることはできないのか？個人的にはクラス数が多い方が望ましいと思う。また、この計画はもはや決定なのか、それとも組み合わせを再検討する余地がまだあるのか、お伺いしたい。</p>	<p>ある程度の学校規模を確保したいという考えと、小学校区をあまり広くしたくないという考えとの兼ね合いが難しい部分である。組み合わせの話なので、1つの校区だけの考えで変更するのは難しいが、計画(案)の変更の余地はまだ残されている。今回のような説明会を全41回行い、今後、説明会で出た意見を反映した計画案を策定する。それを公表、パブリックコメントを行い、さらに集まった意見を反映したところで、最終的な計画案を作成。その後、教育委員会にて学校再編計画を決定する予定である。</p>
4	<p>望ましい学校規模の説明をしていただいたが、統合後、市内の学校は全て適正規模になるのか？それが分かるようなデータを示していただいた方が、納得感があるかと思う。</p>	<p>時間の都合で、市内25校すべてのデータではなく、対象校区のみ、統合前後のデータをお示ししており、申し訳ない。おおまかに説明すると、小学校の再編案の中では、(仮称)柳南小は理想とする規模よりも小さいという予測である。ただ、さらに(仮称)柳城小と統合するとなれば、校区が非常に広がる上、収容できる規模の学校施設がない。そのため、将来的に推計よりもさらに児童生徒数が減少すれば見直しの可能性もあるが、現状ではそれぞれの中学校区での統合を計画している。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
5	<p>義務教育学校について、小学校部分と中学校部分それぞれのクラス単位で見ると、望ましい規模よりも小さくなっている。この状態で、適正規模を確保し、社会性・協調性を育むという今回の学校再編の目的が達成できるのか？通常の6・3制の小中学校がある中で、義務教育学校を導入する理由を知りたい。</p>	<p>(学校教育課長)なぜ蒲池校区と昭代校区に義務教育学校を導入するのかについてであるが、蒲池校区に隣接する校区は旧三橋町地区の矢ヶ部・ニッ河校区と、わずかな境界で接する昭代校区であり、他の校区との組み合わせが難しい。昭代校区は、柳城・柳南校区との間に沖端川があり、統合すると通学面での負担が大きい。昭代校区と蒲池校区を統合し、中間地点に新設校を作ろうにも、地理的に用地確保や通学面で難しい。そのため、小学校同士、中学校同士を統合して横に広げるのではなく、小学校と中学校を統合し、縦に広げて9年制にすることで、全体の学級数を確保する考え方が義務教育学校である。これにより、一定規模の教職員集団を確保できる上、同学年間ではなく異学年間での交流を通じて社会性・協調性等を育み、教育環境の充実を図ることができる。加えて、蒲池・昭代校区においては小中学校の校舎が隣接しており、義務教育学校を作るのに適した条件があった。ただし、部活動においては、小学校高学年が練習に参加し、活性化を図ることができるが、小学生は中体連の大会には出場できないため、団体戦の人数が揃わない可能性があるという弱点もある。</p> <p>(首席指導官)義務教育学校で社会性・協調性を育めるのかというご質問かと思う。中学校は3学年しかないため、学校規模が小さい場合、生徒会活動など、大きな可能性を持っている生徒たちが力を存分に発揮できない懸念がある。義務教育学校にすることにより、9学年からなる集団のリーダーになり、また歳の離れた仲間と接することで思いやりの気持ちを育てられることは、非常に価値のあることだと考えている。県内の義務教育学校の校長の話によれば、義務教育学校になったことで、特に中学生に相当する学年への影響が大きかったとのことである。優しくなり、人のことを思いやれる人間に育っているとのことだった。同学年同士が繋がり広がる、校区の統合による学校再編とは異なるが、異学年間の交流により、社会性・協調性を含めた情操的な部分を十分に育めると考え、今回の計画を策定した次第である。</p>